

生駒市学校教育のあり方検討委員会 就学前教育・保育部会
平成31年度第1回(第6回)会議 議事概要

開催日時：平成31年4月24日(水) 午後3時00分から午後5時00分まで

会 場：生駒市役所 401会議室

会議次第：

1 報 告

(1) 地域との連携・協働に関する市の取組について

2 案 件

(1) 今後の公立幼稚園のあり方について

① 検討に伴う目的と背景

② 現状の把握

・ 生駒市立認定こども園生駒幼稚園及び生駒市南こども園について

(2) その他

出席者：吉岡 眞知子 岡島 保弘 上田 直美 山中 治郎 有吉 正晃

欠席者：米田 恵美子

傍聴者：なし

事務局：定刻となったため、ただ今から「生駒市学校教育のあり方検討委員会 就学前教育・保育部会 平成31年度第1回会議」を開催する。

(新規担当職員等の紹介)

(前回の会議内容について、議事概要に基づき振り返り)

会議次第1 報告(1) 地域との連携・協働に関する市の取組について

部会長：

本件については、前回の会議において、市全体としての取組の報告を受けることとなっていたため、資料に基づき事務局から説明いただく。

事務局：

資料に基づき説明

部会長：

ただ今、地域との連携・協働についての市の取組概要等の説明を受けたが、これを受けて質問や意見はないか。

委 員：

つどい、集まりといったイベントの開催が子育て支援にどのように活かされていくこととなるのか。単発のイベントごとに開催の趣旨や効果等は伺えるが、そのことが市全体としてどのようにつながってくるのかなかなか見えてこない。

一方で、市として、地域との連携・協働に向けた基盤は設けていただけているように感じた。したがって、この基盤を就学前教育や保育に対しても活かせるのか、活かされないのか、また活かされるとすればどのように活かされそうなのかといった方向性について、市としてどのように考えているか。

事務局：

市民自治協議会の運営に当たっては、市内の保育所や幼稚園のほか、PTA や民生

委員、小中学校にも協議会の構成員として参画いただき、具体的に取組を進めてもらうこととなる。設立には各構成員の気運の高まりがなければなかなか難しいのではないかと考える。

一方、市内の保育所や幼稚園、小学校においてボランティア活動を行いたいと考える市民等も多く、本市におけるボランティアの拠点となる「市民活動推進センター さらぽーと」も調整を行っている。調整には、各園等においてどのような業務をボランティアにお願いできるのか、ボランティアから支援を受ける“受援力”が必要となる。したがって、まずは、ボランティアにも手伝ってもらえるような業務の切分けが必要になってこようかと考えている。

委員：

市内の幼稚園においては、地域の人が多くかかわってくれている例もある。ここでは、〇〇のおじいちゃんといった顔が見える関係性があり、園としてもその方の得意分野を把握できていることから、園としてやってもらいたいこととやりたいことが一致しやすい。なお、公立幼稚園には駐車場が整備されていないことから、自転車や徒歩での来園となることもあり、地域住民の方に来ていただくことが多くなる傾向がある。

委員：

市内の小学校においても、地域の保護者にボランティアとして活動してもらっている一方で、さらぽーととの間では現在のところ関わりをあまり持っていないことから、今後はさらぽーととの関係を持たせていくことが必要であろうかと考える。

委員：

地域ごとにまずは連携・協働していくことが必要であると考え。市全体となると、地域、園ごとに連携・協働の仕方も全く異なってくる。連携・協働の仕方も異なれば、濃淡も出てくる。

一方で、ボランティアをやりたい人はたくさんいらっしゃるし、ボランティア団体も多数ある。イベントを開催するとどうしてもそのことだけが目立ってしまうが、開催するのであれば、一過性のもではなく、ネットワークを広げていく必要がある。また、ネットワークを構築していく上でさらぽーとが中心になるのであれば、ボランティアとしてもどこまで連携・協力していいのか明確にしておいてもらわなければ、自分たちだけでは踏み出せないといった意見も伺ったことがある。

部会長：

就学前教育・保育と地域との連携においては、ボランティアがどのように関わっていったらよいかということに加えて、そもそも地域の保育所や幼稚園が地域の子どもを守り、育てるという土台があってこそ、仮にイベントを開催したとしても効果的であり、地域住民が開催してくれてこそ、顔も覚えられるし、関係性を構築していくこともできるわけである。したがって、地域住民の力を借りつつ連携していくに当たっては、“お手伝い”であっては適当ではなく、教育的な配慮が必要となり、そのことを園に伝えることができる環境・土台づくりが必要であるように思う。

事務局：

市内の小学校においては「スクールサポートスタッフ」を配置し、教員の仕事量の軽減のための補助業務や地域住民とのつなぎ役を担っていただいている。市としては、幼稚園においてもそのような人材がいれば地域との連携・協働がスムーズに進むのではないかと考える。地域との連携・協働が円滑に進んでいる他の市におい

でもコーディネーターがいて、個人の力を借りて行っていただいているのが現実的ではある。いずれにしても、今後においてはシステム化が課題になってくるように思う。

部会長：

現時点においては核となる組織が共同体となっているが、これが市全体となると、活動となってしまふ。

また、イベントがたくさん開催されたとしても、質が確保できなければ問題になる。地域において知っている人がコーディネーターであるイベントへの参加であればいいが、そうでないと子どもの教育としても適当ではないようにも思う。

事務局：

社会的なニーズに応えることがボランティアであって、個人がやりたいことするのであっては適切ではないと思う。したがって、受け手として何を手伝ってほしいのかといった発信の手法が大事になってくる。現在は、ボランティアが活躍する場もたくさんあるなかで、特定の場に長期にわたって関わることを敬遠される傾向にあるようである。ちなみに、私立の保育所においては、地域住民の方から昆虫の発見・提示をきっかけとして関係性を築いていき、最終的に畑を貸してもらえようになった事例もあったと聞いている。

部会長：

ボランティアの発掘に当たっては、今回の会議で出された意見もふまえて事務局で検討していただきたい。

一方で、いこま寿大学の卒業生がボランティアとなる事例が多いとのことだが、個人の生き方としては素敵ではあるが、仮に卒業したらボランティアを強制されるということでは、実用的ではあると思うが本来の趣旨とは違うことから違和感を覚える。あくまでも任意での参加という位置づけでいいか。

事務局：

あくまでも任意での参加という位置づけで考えている。寿大学での受講をきっかけとして卒業生の1割でもボランティアに携わってもらえればありがたいと思っている。

会議次第2 案件(1) 今後の公立幼稚園のあり方について

部会長：

事務局から説明いただく。

事務局：

資料1～6に基づき説明

部会長：

今後の会議の開催に当たっては1か月に1回の開催となるが、それでいいか。

(了承)

ただ今、公立幼稚園の現状やこども園化の経緯等について、現場の職員の意見等を伺ったが、これを受けて質問や意見はないか。

委員：

南幼稚園のこども園化に当たっては、“南地域の幼稚園”が突如市全体のこども園になることから、元来“南地域の幼稚園”との思いが強かった地域住民からのとまどいや不安の声も大きかった。また、こども園化を提示する時期が入園説明会時

に聞いていなかったという意見もかなり多かった。こども園化に当たっては、地域住民の声をよく聞いてから進めることが大切であるとの認識を関係者として新たにした。

部会長：

私も南こども園の設立には少し関わったところだが、地域住民からもこども園化になるという計画であれば入園するか否かも含めて考えたのにといった意見も受けた。

こども園化に当たっては、当然のことながらそれありきというのは適切ではなく、きちんと計画を立てて行わなければならない。

委員：

保育所と幼稚園では保護者の認識もかなり異なっているのか。

事務局：

こども園化によって幼稚園式の運営形態に向かっていくのではないかとの不安から涙ぐまれる保護者もいた。また、キャラ弁を持参する園児と比較してしまうことで、自分の子どもが淋しい思いをしてしまう懸念も持たれていたようだが、たとえ給食であっても調理師が心を込めて作っていることの説明を行ったところである。働く親としても子どもの弁当を毎日作るのは現実的に難しい。さらには、みんなと同じものを食べることによって食育にもつながるように思う。

委員：

園としても、粘り強い説明をしたり、次の日の給食の献立を提示することによって、給食もいいなという感想につながっていった。

部会長：

南こども園の設置の際に粘り強く丁寧に説明することで、認定こども園生駒幼稚園の設置においては、市民の感覚としても安心に向かっているように感じた。

事務局：

認定こども園生駒幼稚園の場合は、今までどおり幼稚園教育を受けられ、長時間保育も利用可能であるので、保護者からの抵抗も小さかった。また、みんなで給食を食べられるようになるということで、当初から喫食率は高かった。

部会長：

周辺の保育所に通っていた人は認定こども園生駒幼稚園に戻ってきたのか。

事務局：

認定こども園生駒幼稚園の場合は、公立のこども園でありながら幼稚園教育を受けられるということで入園を希望される保護者も若干名いる。幼稚園型のこども園となるので、0～2歳のきょうだいがいる場合は2か所に送迎する必要が生じ、その点については当初保護者から意見もあったが、実際の入園後は特段困るといった意見も受けていない。

公立の幼稚園から幼稚園型のこども園への移行は比較的スムーズに行えるものの、幼保連携型こども園への移行はかなりのエネルギーを払って行わなければならない。同じこども園化でもかなり違うこととなる。

部会長：

南こども園化の設置に至るまでのエネルギーは確かに多大で、保護者からの意見もたくさんいただいた。当時は社会的にもこども園の設置はまだ初期の時期で、不安に思う保護者も多かったのだろう。一方で、現在はこども園もたくさん設置され

ており、かつ南こども園の事例もあるので、保護者としても安心できる要素があるように思う。南こども園の実績が少しは浸透し、事務局として懸念しているよりも案外スムーズに移行できる素地はあるのかもしれない。

事務局：

園の規模を考える際には、少人数学級となっている場合は、教育的視点として園の統合も必要になってくると考えた方がいいのか。

部会長：

人間関係を築いていくうえでも1クラスの園児数は多いほどいい。一方で、1クラスの園児数が5~6名ということであれば話も別だが、地域を離れて通園すると、保護者や園児にとっても負担になるわけで、それが園の統合に当たっての第一義的な条件にはならないと考える。

市としては、幼稚園同士の統合なのか、保育所と幼稚園の統合によるこども園化なのか、現在どのように進めていこうと考えているのか。

事務局：

次回以降の会議の際に市の考え方を示させていただくが、考え方の素地としては、第一義的にはこどもの教育・保育からの視点を重要視したいと考えている。

検討に当たっては、地域ごとにこども園化や園の統合、運営主体の変更といった幅広い観点から今の既存のポテンシャルを地域ごとに再編していく手法で検討いただきたいと考えている。

部会長：

運営主体の変更について、たかやまこども園の事例による現状と課題も伺いたい。

事務局：

運営手法について検討する際に話を伺う機会を設けさせていただく。

委員：

現状の施設はどの程度老朽化が進んでいるのか。

委員：

築年数によって修繕の際の費用にも影響が出てくる。

なお、保護者にとっては、保育所なり幼稚園なりが自分の子どもが最初に教育を受ける場所になることから、最初の場所については気になることも多いだろう。どんなことであっても、変更が生じる際には反発があるものである。

ちなみに、保育所を卒園して小学校で初めてPTA活動を経験する保護者には、PTA活動は大きなかべのようで、保育所に入れたい理由がPTA活動がないからといった意見もあるように聞く。保護者にも幼稚園のプライド感、保育所のプライド感はあるように聞くが、最終的には子どもがいかにいい環境で教育・保育を受けられるかを考えなければならない。

事務局：

南こども園の設置の際の苦勞も解決したのが子どもであり、様々な状況に置かれた友達がいるということを理解し、それを受け入れることで、保護者としても不安等を解消していったとの声もあった。

部会長：

保護者は先々に心配するが、子どもは案外環境に溶け込んで、違う環境であることを発見し、そのような経験がたくさんあることで、親の心理も変わってくるようだ。子どもは対応できるし、その素晴らしさが浸透すれば、小学校に通学する頃に

は変わってくると思う。

委員：

保護者の意見を全部受け入れることになれば逆にとんでもない施設になってしまいかねない。先生方の実践をうまく保護者に伝えることが大切ではないか。

事務局：

今年度、「子ども・子育て支援事業計画」を策定することとなっており、市民にニーズ調査を行うなかで、就学前教育・保育に対する意向も伺っていきたい。結果については夏以降に報告できるものと考えている。

会議次第2 案件(2) その他

事務局：

次回以降の会議の日程について調整したい。

(日程調整)

それでは、ただ今の調整の結果、次回の会議については5月22日(水)の午後1時から開催することに決定する。

次々回の会議については、6月28日(金)9時30分からの開催を念頭に改めて調整する。

部会長：

本日の会議の案件は終了しました。以上で、第1回生駒市学校教育のあり方検討委員会 就学前教育・保育部会を終了します。

以上